

露國征伐戰勝笑話

○露艦の浮溺 骨皮道人

露國の軍艦人足が旅順港内で打毀れ軍艦の膏藥張を「なまら」甲野郎何を迂るくしく居るのど、仕り幽霊飯奔廢たアを前遠のりだぞし河を云ヤアがのど破船は微蓋あらびつこもあるが此板を毀れ軍艦の微底がけて呆くらア丙「さう升骨を折て修繕ッたつてどうせ壺に沈没と来るのだから張合がなふアと互ひ小出砲臺を云て居るおら、ツドン」くく、裏くと天地も碎ける計りの物凄いの響きがた一同の膽を潰して真蒼ふなつて居ると其處へ又一人の男が青息を吹きながら駆てきて「大變だ、今日日本艦隊がはて来て駆逐艦二隻の數を沈まほるお角小旗艦のペトロハウロスクも日幸の沈没水雷に巻附られたら、マカロフ提督も乗組八百人も残らぬ溺死し甲斐ア大變だ然ホお前の何時でも嘘ばかり吐から何を云ふら分らない八百の溺死たア何ぞか嘘らういせ丁ナリニ是計りヤア全く本葬ど、



ちんどう
曹
來
齋

明治廿七年青育印刷 今年五月去月發行 再作印刷發行 者東京市淺草區南光町十五番地 牧金之助